

- (一) 指導内容の関連や発展を的確に把握し、重点化を図って、時間的にゆとりをもたせる。
- (二) 個々の生徒の実態を的確に把握するとともに、前年度の反省を生かして指導計画を作成する。
- (三) 数量や図形に関する基礎的な概念や原理・法則の理解と技能の習熟に重点をおくようにする。

## 二 指導内容の統合及び重点化を図り、教材を精選し、指導の効果をあげる

- (一) 各領域のねらいと内容を的確に把握し、取り扱いの程度、軽重、相互関連を考慮して指導を進める。
- (二) 「数と式」「図形」の指導は、基礎となる領域としてとらえるとともに、体系的に取り扱い、指導の徹底を図るようにする。

## 三 基礎的な知識の習得や技能の習熟と「数学的な考え方」の育成との調和を図る

- (一) 基礎的な知識の習得や技能の習熟に当たっては、その過程を大切にす

## 四 学習意欲を高め、学習活動が一層効果的に展開できるよう指導法の改善に努める

- (一) 個人思考と集団思考の關係に配慮しながら、生徒が自力で問題を解決する喜びを味わうことができるよう工夫する。
- (二) 生徒一人一人の学習のねらいを明確にし、生徒自身が学習の成果を知ることにより、意欲的・積極的に取り組むことができるよう工夫する。
- (三) 教育機器の活用、資料提示の仕方、学習形態等を工夫するとともに、個に即した適切な指導助言をする。
- (四) 指導と評価の一体化を図り、基礎的な知識、技能が一人一人に確実に身につくよう努める。



# 理科



## 小学校

力、態度の育成、及び、自然を愛する豊かな心情を培う指導法の研究に努める

- (一) 自然の事物・現象について、児童自ら問題を見出し、意欲的に解決に取り組むための動機づけの工夫をする。
- (二) 児童一人一人が明確に課題をとらえ、観察・実験を行い、主体的な探究活動を通して課題の追求が行われるよう工夫する。
- (三) 学習のねらいや内容、及び、教材の性格、児童の経験や能力等を考慮し、多様な学習方法、形態がとれるよう工夫する。

## 一 児童・学校及び地域の実態に即し身近な自然を生かした指導計画に改善する

- (一) 基礎的・基本的事項を系統的にとらえ、児童・学校及び地域の実態に即して指導内容の精選・重点化を図り、ゆとりと充実のある学習活動が展開できる指導計画にする。
- (二) 身近な自然の事物・現象に直接触れる活動を重視し、観察・実験を適切に位置づけた指導計画にする。
- (三) 他教科・道徳・特別活動との関連を図り、低学年においては、合科的な指導を積極的に取り入れた指導計画にする。

## 三 評価についての実践研究を深め、指導計画や指導法の改善に努める

- (一) 指導過程での評価や自己評価を適切に行い、児童一人一人に対する的確な指導を進めるとともに、指導法の改善に努める。
- (二) 自然を調べる能力や態度及び観察や実験の技能の評価方法について、実践的研究を更に深め適正な評価に努める。

## 二 児童が自ら考え、自然を調べる能

- (一) 身近な素材の活用を図るとともに

## 四 指導の効果を高めるため、学習環境、及び、教材・教具の整備、活用に努める